

放課後学習会通信

第2号 文責：山崎こ

5月 放課後学習会予定表

日にち	曜日	学習会	時間
1	金		開校記念日
2	土		
3	日		憲法記念日
4	月		みどりの日
5	火		こどもの日
6	水		振替休日
7	木	×	部活動保護者説明会 一斉下校
8	金	×	一斉専門委員会・学年委員会
9	土		
10	日		
11	月	×	
12	火	×	2学年宿泊研修事前指導
13	水	×	2学年宿泊研修
14	木	×	2学年宿泊研修
15	金	×	2学年休養日 3学年修学旅行事前指導
16	土		
17	日		
18	月	×	3学年修学旅行 1・2年教育相談
19	火	×	3学年修学旅行 1・2年教育相談
20	水	×	3学年修学旅行 1・2年教育相談
21	木	×	3学年休養日 1・2年教育相談
22	金	×	職員会議 一斉下校
23	土		
24	日		
25	月	×	全学年教育相談
26	火	×	3年教育相談
27	水	×	3年教育相談
28	木	×	3年教育相談
29	金	×	3年教育相談
30	土		
31	日		

各学年の旅行的行事や教育相談があるため、1回も実施することができません。ごめんなさい。

全国学力・学習状況調査の問題を分析してみた

6 次の手順で、2つの3けたの自然数をつくります。

手順

① 1から9までの自然数の中から異なる2つの数を選ぶ。それを「選んだ2数」と呼ぶ。(例：1と2)

② 選んだ2数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた3けたの自然数をAとする。(例：212)

③ 選んだ2数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた3けたの自然数をBとする。(例：121)

陸斗さんと夏帆さんは、上の手順にしたがってできたAとBについて、 $A+B$ の値がどんな数になるかを調べました。

選んだ2数が1と2のとき、Aは212、Bは121となり、 $A+B=212+121=333=111 \times 3=111 \times (1+2)$

選んだ2数が3と5のとき、Aは535、Bは353となり、 $A+B=535+353=888=111 \times 8=111 \times (3+5)$

選んだ2数が2と7のとき、Aは727、Bは272となり、 $A+B=727+272=999=111 \times 9=111 \times (2+7)$

これらの結果から、陸斗さんは次のように予想しました。

陸斗さんの予想

手順にしたがってできたAとBについて、 $A+B$ の値は、選んだ2数の和の111倍になる。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 次の調べたことは、選んだ2数が2と4のときと、3と6のときについて、前ページの陸斗さんの予想が成り立つことを確かめたものです。次の□に当てはまる式を書きなさい。

調べたこと

選んだ2数が2と4のとき、Aは424、Bは242となり、 $A+B=424+242=666=111 \times 6=111 \times (2+4)$

選んだ2数が3と6のとき、Aは636、Bは363となり、 $A+B=636+363=999=111 \times 9=$ □

(2) 前ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことは、選んだ2数について、具体的な数ですべての場合を調べなくても、次のような方針を考えて説明することができます。

方針

- 選んだ2数を文字で表し、その文字を用いて、AとBをそれぞれ文字式で表す。
- $A+B$ を計算し、□の形に変形できることを示せば、陸斗さんの予想がいつでも成り立つといえる。

方針の□に当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア $111 \times (\text{整数})$

イ $111 \times (1 \text{ けたの自然数})$

ウ $111 \times (\text{選んだ2数の和})$

エ $111 \times (A \text{ と } B \text{ の和})$

(3) 7ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを文字を用いて説明した陸斗さんと夏帆さんは、次に、手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値がどんな数になるかを考えることにしました。

選んだ2数が1と3のとき、 $A-B=313-131=182$
 選んだ2数が4と7のとき、 $A-B=747-474=273$
 選んだ2数が5と9のとき、 $A-B=959-595=364$

二人は、 $A-B$ の値について話し合っています。

夏帆さん「182、273、364は、どんな数なのかな。」
 陸斗さん「例えば364は、選んだ2数の5と9の差である4と関係があるかもしれないね。」
 夏帆さん「選んだ2数の差の何倍かになっていないかな。」

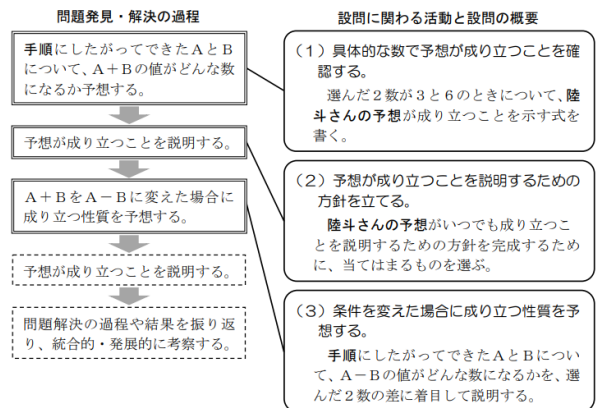
手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値は、選んだ2数の差に着目すると、どんな数になると予想できますか。7ページの陸斗さんの予想のように、下の□に当てはまることを「□は、□になる」という形で書きなさい。

手順にしたがってできたAとBについて、

この問題は令和8年度全国学力・学習状況調査の数学の問題の1つです。この問題をパッと見てどんな印象をもちますか？たぶん、「数学なのに文字が多いなあ～、読むのが大変そうだなあ～」と思う人が多いと思います。次に、この問題は皆さんのどんな力を確かめているのかを見ていきます。

調査問題一覧表 【中学校数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			
			数	図	関	テ	知	思	選	短	記	
6	(1) 選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	2(1)				○				○	
	(2) 陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを説明するための方針を完成するために、当てはまるものを選ぶ	事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる	2(1)				○				○	
	(3) 手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1)				○					○



※問題発見・解決の過程の「□」は本問では取り上げていない場面である。

この問題は、「数と式」という分野の問題です。(1)(2)では問題を解くために基礎・基本となる「知識・技能」、そして(3)は知識・技能を活用する「思考・判断・表現」の力を確認するための問題となっています。つまり、問題を解くためには、基礎・基本となる「知識・技能」を確実に習得する必要があるということです。

この問題に関しては、問題文の文字数は多いものの、問題文をしっかりと読み解いていくことで、解答するための方法を考えるためのヒントが隠されています。

最近では、北海道の高校入試の問題も問題文の文字数が多くなってきています。正しく解答するためには、「問題文をしっかりと読み取る」ことが皆さんには求められます。さらに、各教科の授業や家庭学習において、基礎・基本となる「知識・技能」を習得し、知識・技能を活用した「思考・判断・表現」の力も高める必要があります。

つまり、「覚える・身につける」→「覚えた・身につけたことを活かして考える」ことができるよう、日々の授業や家庭学習に取り組んでいってほしいと思います。

今後、放課後学習会でも皆さんの学習をサポートしていきます。一緒に頑張ってください。